

令和5年度

勝浦中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

一人一人の子どもを大切にしたいわかる授業づくり
～ 期待して登校 満足して下校 ～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
鎌田 明美	校長 高橋 明 教頭 大野 慎吾 教務主任 谷口 勇
	1年主任 見谷 真希 2年主任 鎌田 明美 3年主任 松田 堯人

校長

高橋 明

【小中連携または中高連携における共通の取組】

読書活動の推進と国語力の向上を目指した図書館との連携

【各校の取組状況の把握について】

教員同士の授業参観を積極的に行い、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた学習環境を保っている。学習環境として、学力を高めやすい状況にある。学習活動に真面目に取り組む生徒が多く、積極的な態度で学習活動に取り組むことができている。 ●学習に対して粘り強く取り組むことが難しい生徒も一定数いて、基礎・基本の定着に課題がある。	①授業に積極的に取り組み、資質・能力の向上を図ろうと努力する。 ②授業や家庭学習に粘り強く取り組むことで、基礎的・基本的な資質・能力を高める。	①授業のまとめや振り返りの充実を図る。 ②課題の確認や指導を適切にする。 ③課題を解決したり、克服したりすることの難しさを感じる生徒には個別指導を工夫し、達成度を高めていく。	①授業のまとめや振り返りについて、単元を通して実施するように図る。 ②家庭学習の提出については、提出状況の確認を図る。 ③個別指導は状況に応じた課題を提示し達成度を高める。	①授業や単元後、興味関心や理解度についてまとめたり、振り返ったりしている。 ②課題への達成度については、個に応じた助言を伝えるようにしている。 ③個別指導については、理解度が異なるため声掛けをしつつ導いてきたが、達成状況に課題が残る。	課題の達成状況は個人や内容で異なる。したがって課題の確認を定期的に行い、個人の理解に応じた指導をすることが必要である。課題の未提出生徒への対策の一つとして、提出範囲を細かく提示していくことで減少させられることができるのではないかと考える。学習達成度を高める対策の一つとして、復習プリントや小テストの計画と学習状況に応じて実施することを考える。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペアやグループによる活動で積極的に自分の考えを表現しようとしている生徒が多い。 ●話し手の考えを聞こうとしてはいるが、その考えに対して異なる考えを伝えるまでではない。また、よりわかりやすく伝えることや自分の考えを広げたり、深めたりするところに課題があると考え。	①情報を整理し、自分の考えをもつ。 ②相手にわかりやすく自分の考えを説明したり、相手の考えを十分引き出したりする。	①教材研究において、思考・判断・表現する活動を工夫する。 ②授業の中でペアやグループによる活動でタブレット端末を効果的に活用する。 ③授業で思考・判断・表現する活動を適切に実施し、考えをまとめ、発表させる。	①学習活動において、思考・判断・表現する活動を効果的に実施する。 ②ペアやグループによる活動で表現のモデルを提示する。 ③思考・判断・表現する活動では発表する機会を図る。	①学習活動のなかで思考・判断・表現する活動を実施しているが、思考力を促す内容になっているか、検討を要する。 ②タブレット端末による表現のモデルの提示や活用方法について、検討を要する。 ③授業のなかで課題に対する考えは伝えているが、思考・判断・表現する過程について、検討を要する。	授業のなかで思考・判断・表現する活動は導入している。課題は三つある。一つは、活動の過程として、生徒の思考が導入前後で発達しているか、二つは、理解力の高い生徒には有効としても、思考の発達がみられない生徒には、課題や過程などの再考を要するのではないかと考える。三つは、タブレット端末を活用した思考・判断・表現する活動について、どのような学習場面で設定することが有効か、検討していくことが必要と考える。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して、積極的に取組み、成長したいという想いのある生徒が多い。 ●自分で課題設定をし、主体的に解決しようとする生徒は多くない。	①読書の意義を理解し、読書をする。 ②授業の目標を意識し、意欲的に取り組む。 ③家庭学習は計画を立て、取り組む。	①読書の意義を伝え、学級文庫を活用し、読書活動を図る。 ②授業の目標と展開を説明し、学習の見通しを意識させて取組ませる。 ③英検などを奨励し、意義を伝え、積極的に支援する。	①図書委員会による呼びかけや学級文庫を定期的に入れ替える。 ②授業予定を提示することで、安心感を持たせる。 ③検定は、練習の機会を多くし、目標達成への自信を持たせる。	①図書委員会による学級文庫は入れ替えているが、読書量へと繋がることは難しい。 ②授業開始、目標を視覚的に確認している。展開についても意識するように説明できた。 ③英検・数検・漢検は、現時点の学習達成度を知る機会であると意義を伝えている。支援については練習や問題の対策を実施した。	生徒自らも学習目標をもち、主体的に学習に取り組むためには、達成状況チェックリストなどを活用していくことが考えられる。したがって、各教科においてCAN-DOリストを作成し、達成状況を理解しつつ、授業計画や指導に生かしていくように、続けていくことが必要と考える。

令和5年度 学力向上ロードマップ

